



存続が難しくなっています。今後どのように増やしていくかが課題となっております。

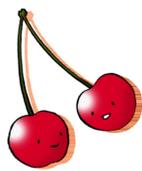
昨年絵手紙を一般講座で実施したところサークルで立ち上げたいとの要望が多かったためサークルとして発足しました。



\* (絵手紙サークル「秋の会」)

同様に今年は手話を一般講座で実施したところ、サークルとして立ち上げたいとの要望が多く、「手話クラブ」として立ち上げることが出来ました。

冒頭にあげましたように皆さんが来て何かをすればフレイル予防が出来る公民館を目指して取り組んでおります。



### ふるさとに学ぶ

#### 「蚕都熊谷」の礎は

石原にあり

石原公民館

主事 平井加余子

熊谷駅正面口、壁面に「熊谷市鳥瞰図」が飾られているのを見たことがあると思います。



熊谷市鳥瞰図・熊谷駅陶板画 (部分)

これは、昭和8年の熊谷市制施行を記念して、同11年に吉田初三郎氏により描かれた絵を陶板画にしたものです。この絵の右端側が石原ですが、よく見て貰うと何と製糸関連施設が多いのに驚きます。現在では想像できない石原の光景が、昭和初期にあったことがわかります。

埼玉県に唯一の熊谷気象台や県立蚕業試験場もあります。蚕を育て、生糸を輸出するところが国策の時代、蚕に必要な桑の遅霜被害を未然に防ぐために、一刻も早く気象情報を発信出来る様に、養蚕の盛んな県北の中心熊谷に設置されました。

また、製糸工場の立地条件は、原料の繭が充分に供給され、製糸用の水が確保出来る事、交通の便が良い事などですが、石原地区は大養蚕地帯を持ち、荒川の伏流水が豊富で、大里幹線用水も通っています。中山道・秩父街道があり、秩父鉄道石原駅があるなど交通の便にも恵まれ、生産した生糸の輸送に便利でした。更に広い土地のあった石原には次々に大きな製糸工場などが建てられました。

まず、明治32年に三木原製糸所が設立され、同40年には片倉工業(株) 石原工場と改称され(現イオン)、大正元年には松崎製糸場(現とんでん、ニトリ)、同6年には金ル製糸繭買入所(現おせんべいやさん)、同7年には赤レ

ンガの埼玉社と呼ばれた「有限責任生糸販賣購買組合聯合会埼玉社(現住宅地)、同11年には繭の乾燥をする大里乾繭販売利用組合(現さわやか熊谷館)、同15年には熊谷大火の後、泉町から移転した熊谷製糸(株)(現県営熊谷石原団地)などが建ち並び、製糸業ばかりでなく、清水染工場、岡村染工場などの染色工場もあり、女工さん達で賑わいを見せていました。まさに蚕都の礎とも言える石原がありました。

#### 石尊様を祀る

大幡公民館

館長 岡 幸江

熊谷市柿沼中廓地区では、「石尊様(※)を祀る」伝統行事が連綿と受け継がれ地区住民総出で行われています。



石尊様

令和5年は7月23日に行われました。そこで、今年用の掛・荻原甚三郎さんに話を伺いました。『現在の石尊様を祀る灯籠は二代目(?)で地元の四分一大工さんが造ったと言われている。灯籠起こしは7月27日の日曜日(昔は27日と日が決まっていた)に行っている。コロナ禍の三年間は用掛の役員さんのみで行っていたが、今年の中廓住民総出で早朝から行った。周辺を綺麗に清掃して、収納してある祠から石尊様を出し、起こして屋根を付け、四隅にササを立て縄で一周し幣束で飾り付けをした。8月20日の日曜日(昔は8月24日と決まっていた)に、お地藏様が開かれるまで約一か月間毎晩回り番でこの灯籠にあかりを灯している。いわれや時期は不明であるが江戸時代か明治時代ではないかと伝わっている。以前は油を灯していたが現在は電池式になった。石尊様は阿夫利神社の分社の一つで、戦前と戦後に中廓一堂で大山参りに行っていた。』とのことでした。

農業に携わる人が少なくなつた現代でもこのような伝統行事が連綿と受け継がれ、地域住民の連携と絆を深めるうえで大切な役割を担っています。地域文化を育てるうえで重要な事と思い、長く受け継がれることを願っています。

(\*) 柿沼には、北廓・中廓・遠新田に石尊様があります。阿夫利神社は古くから山岳信仰の山として知られる大山(神奈川県伊勢原市)にあり、農耕の神様であり、雨乞いの神様でもあります。山頂には石尊大権現を祀る本社があります。

### 学級講座紹介

みなさまに喜んで

いただける講座を目指し

奈良公民館

原田亜也子

奈良公民館の生涯学習は、地域の方全員が対象の「一般講座」と、年度の初めに申し込みを実施し、入会された方が対象の「ほのぼの学級」があり、現在約120名の会員

が活動しています。

奈良は地域が広いので、会員の募集や講座の案内の配布を、各支部の代表(連絡員)にお願ひしています。

今年度のほのぼの学級は、唱歌のコンサートの開講式から始まり、11の講座を計画しました。開講式には、小学校の体育館をお借りし、奈良小児童と一緒に鑑賞し、児童との交流を深めることができました。6月には日光に40名の参加者と親睦を図りながらの県外研修へ行き、世界遺産や重要文化財に触れるよい機会となりました。

近年、公民館利用者の高齢化、そしてサークルなどの衰退が懸念されています。講座を開催するにあたり、「やってみよう・みてみよう・聴いてみよう」をテーマに掲げ、常に、「みなさんが喜んでくださるだろうか。」を一番に考え計画をしています。また、それが次に繋がる様な講座にすることを目標にしています。ほのぼの学級生のみなさんは、身体を動かす健康教室への参加が多いことから、昨年

度の学級講座の中で、体力測定やヨガを取り入れました。特に人気の高かったヨガ体操は、サークルに出来ないかと、地域の回覧で会員を募ったところ、想像を遙かに超える方からの応募があり、今年度からサークルとして活動しています。

その中で一番うれしいことは、「いままで一度も公民館事業に参加したことがない」という方がほとんどだったことです。まさに今、求めていることが実現できました。今後もみなさんが、公民館事業に参加しやすい、また、興味の湧く、元気になる講座を職員一同、考え、話し合い、地域活性化のお役に立てるよう進めて参ります。

さくらカードで

受付簡単申し込み

江南公民館

館長 前川美佐保

江南公民館では、さくらカード会員になると学級講座の申し込みが簡単にできます。毎年、十十三回のプログラム

で「健康いきいき学級」を開催します。その人に合った生涯学習の発見に繋がる講座です。

主催事業「リズム体操」は、健康維持に向けての大人気の教室で、会員数三十五名。来年度は登録団体となります。

「歌広場」は、毎月一回参加者からのリクエスト曲十五曲の昭和歌謡を、画像と音源、解説付きで歌う広場です。現在二十六名の会員です。

ふれあい講座は、文化や歴史等をテーマに掲げ、年二回、開催する一般公開講座です。全く公民館を利用した事が無い市民や男性の参加が多く得られるという利点もあります。

また夏休みの親子教室は、毎年開催しているので、受付開始日に定員となつてしまいます。

また、今年度より新たに

『美萌咲(みもぎ)』という学級講座を企画しました。その都度、江南公民館だよりで募集します。「楽しそう」とか「作ってみたい」とか、そんな風に思える内容を多く取り入れて開催しています。

五月の『野菜ソムリエによる旬野菜教室』ではホームフリージングを学びました。六月に『わくわくする神社

参拝のお話』宝登山編を学びました。神社愛に燃える講師の話に参加者は吸い込まれ予定の時間を優に超え、直ぐにでも参拝に出掛けたい気持ちにかられました。

七月には手話講師を招き『ろう者の事を知って手話で挨拶しよう』講座を開催。ろう者を理解し共生社会の中で生きる重要な点を学びました。参加者全員が、自己紹介をできるようになりました。

八月には『枯山水の世界』講座でミニチュアの枯山水セットで自分だけの日本庭園を作り、日本文化に触れました。

その他、救急救命講座や陶芸体験など、多くの講座を開催します。

江南文化祭やクリスマスコンサートなどのイベントを終え、三月下旬に熊谷市環境政策課と合同で里山ウォークを開催します。小江川千本桜事業で植樹された桜並木を歩き一年を締め括ります。

# 職員等研修会報告

令和5年7月28日(金)職員等研修会が江南公民館を会場に実施されました。新型コロナウイルス感染症の扱いが2類から5類に移行された5月以降初めての市公連行事として、参加人数を会場定員まで可能とし、3年ぶりに講演会を併せて開催する等、盛況なものとなりました。

前半は各館の事例発表。第1ブロックからは熊谷東公民館、そして第2ブロックからは星宮公民館が担当しました。



熊谷東公民館発表の様子

熊谷東公民館の所属する第1ブロックは熊谷東・本町・宮町・箱田公民館が所属する、

熊谷市の中心部エリアをカバーする地区。この中で熊谷東公民館は熊谷駅北口から東寄りの地域が中心となり、運営協議会を主体に、様々な講座や活動を実施。シニア層を対象とした「ポップ・ステップ大

学」、小学生を対象とした「キッズ講座」を中心とした展開を行っているとのこと。クラブ発表も盛んで、館の利用率も高い状況を維持しています。一方、やはりコロナ禍

し、次世代への継承を目的とし、今後も活動を継続していきたいとのことでした。次に、後半は熊谷市政策調査課から講師をお招きし、「スマートシティの取り組みについて」との演題で講演をいただきました。これはテク

令和5年度熊谷市公民館まつりが、以下の日程で、妻沼中央公民館・展示館(同敷地内)を会場に開催されます。  
【日程】  
○令和6年3月9日(土曜日) 開場 10時00分〜15時30分  
○令和6年3月10日(日曜日) 開場 10時00分〜15時00分  
今年度は舞台発表・展示発表とともに実施予定です。日頃の公民館活動の成果が一堂に会します。ぜひ皆様のご来場をお待ちしています。

# 公民館まつりのお知らせ

展開を行っているとのこと。クラブ発表も盛んで、館の利用率も高い状況を維持しています。一方、やはりコロナ禍を経ての外出マインドの冷え込みや、参加者の高齢化が見受けられ、研修旅行や講座参加人数の減に現れており、現状の課題となつておるとのこと。対策として講座等の自身の充実はもちろん、テキスト中心から映像化を図り、デジタル技術やスマートフォン関連の講座を開く等、試行錯誤しているのが現状とのこと。

公民館の活動としては、32講座を開講し多くの参加者に利用いただいております。自治会・長寿会・スポーツ推進員等と協力し、春季のグリーンカーテンづくり、夏季のラジオ体操、秋季のコスモス祭り等が実施されているとのこと。

具体的には「熊ぶら」(スマートフォンアプリ)、地域通貨、コミュニティバスのスマホ回数券、気象シミュレーションや人流データ活用のおまじゆくりをあげ、その将来像を含め紹介いただきました。

令和5年11月30日、妻沼中央公民館において行われた第37回大里地区公民館連合会研究会に熊谷市代表として参加、事例発表を行いました。



星宮公民館発表の様子

続いて第2ブロックからは星宮公民館の発表がありました。星宮地域はもとの北埼玉郡星宮村が昭和の大合併(昭和30年頃)時に熊谷市と行田市に分村合併となった地域。

また、子供たち、長寿会、PTAの三世交代交流事業として、2月初旬の「まゆ玉作り」、「小豆粥の試食会」、7月の「まこも馬」作りを実施。地域に伝わる伝統行事を大切に

なお、星宮公民館においては令和5年11月30日、妻沼中央公民館において行われた第37回大里地区公民館連合会研究会に熊谷市代表として参加、事例発表を行いました。



《昨年度展示発表の様子》